

**実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究  
実施方法等**

**1. 実践校について**

実践校名	広島県立 安西高等学校 (ひろしまけんりつ やすにしこうとうがっこう)		
	学科名	生徒数	学級数
	普通科	605	17

**2. 実践研究の対象**

- ・実践研究に取り組む学年等：1 学年，210 人，6 クラス  
2 学年，225 人，6 クラス

**3. 実践研究の実施経過**

(1) 研究の目的

「学校の教育活動全体を通して、主体的に社会に参画し、自立して社会生活を営むために必要な力を育成する。」ことを目標として、実践校が学問と実社会との接続・接点の部分を感じ、学ぶ理由を理解して学ぶ意欲を育む。

(2) 研究の内容

実社会での諸課題をテーマとした課題研究及び実社会について生活者の視点から主体的に考察する学習活動を通じて、実社会や実生活の中で役立つ力を育む学習プログラムを開発する。

(3) 実践の結果

外部講師の指導のもと、各班が実社会での諸課題をテーマにした研究を行い、1 学年ではポスターセッション、2 学年ではポスターセッション及びパワーポイントを使った発表会を行った。学年全体で本研究に取り組み、次年度に向けた教材を作成することができた。

(4) 研究の経緯

① 教員の取組について

平成 28 年度と同様の体制で企画・運営を行った。

月	委員会等	活動内容
4	セルフプランニング委員会 (以下 S P 委員会) ワーキンググループ 校務運営委員会	全体計画の策定 S P シラバス作成 アンケート作成 オリエンテーション「実社会との接点を重視した課題解決

		型学習プログラムに係る実践研究」ガイダンス 接遇マナー講習会
5	S P委員会 ワーキンググループ 校務運営委員会	中国新聞記者による「新聞記者に学ぶインタビューの仕方、メモの取り方講座」 講演「命の授業」、進路指導講演会 情報に関するグループのための講義
6	S P委員会 ワーキンググループ 校務運営委員会	クラス探究テーマ設定 社会規範に関するグループのための講義 消費生活・税に関するグループのための講義
7	S P委員会 ワーキンググループ 校務運営委員会	切り抜き新聞をつくる 職業・学部理解のための説明会 第1回運営指導委員会（今年度運営指導方針の検討）
8	S P委員会 ワーキンググループ 校務運営委員会	課題解決学習の運営 全体発表会の企画
9	S P委員会 ワーキンググループ 校務運営委員会	全体発表会の運営 課題解決学習の運営 マツダの本校OBによる講義
10	S P委員会 ワーキンググループ 校務運営委員会	課題解決学習の運営
11	S P委員会 ワーキンググループ 校務運営委員会	ポスターセッション・クラス発表会・学習発表会の企画等 人間関係構築講座①
12	S P委員会 ワーキンググループ 校務運営委員会	課題解決学習の運営
1	S P委員会 ワーキンググループ 校務運営委員会	課題解決学習の運営 人間関係構築講座②
2	S P委員会 ワーキンググループ 校務運営委員会	クラス発表会・学習発表会・事後アンケート実施 第2回運営指導委員会（成果報告）
3	S P委員会 ワーキンググループ 校務運営委員会	完了報告書の作成 次年度計画の策定（S Pの内容検討）

② 生徒の取組について

1 学年では、探究活動の一連の流れを体験させることを目的とし、昨年度の過程を踏襲し、クラスごとに実施した。当初の計画では、2 学年もクラスごとにテーマ設定を行う予定であったが、生徒の主体性・自主性をより高めるために、生徒の希望を優先し、クラスの枠を超えたグルーピングを実施した。その結果、昨年度より主体的な探究活動がなされるという利点生まれ、探究活動の時間を十分に確保するために、2 年第 1 回発表会を 7 月から 9 月へと変更した。

回		月	日	学習活動	学習内容
1 年	2 年				
1	1		14	ガイダンス	1 年, 2 年 ガイダンス
2	2	4	22	マナー講座	1 年, 2 年 広島県中小企業家同友会川中理事による講義
		4	28	グループ設定	2 年 グループメンバー決定
4	5		12	インタビュー・メモの取り方講座	1 年 中国新聞社記者によるレクチャー 2 年 テーマ希望調査
		5	14	命の授業	腰塚勇人氏による講演
6	6	6	26	情報の収集	1 年 (全員), 2 年「情報に関すること」グループ 広島市立大学井上教授による講義
7	7		2	情報の収集	1 年(全員), 2 年「社会規範に関すること」グループ 広島弁護士会野田弁護士による講義
8	8	6	9	情報の収集	1 年 (全員), 2 年「消費生活・税に関すること」グループ 広島東税務署福本広報広聴官による講義
9	9		16	課題設定	1 年 職業インタビューの事前学習 2 年 「社会規範に関すること」グループ 広島弁護士会と連携
10	10		23	情報収集	1 年 職業インタビューの事前学習 2 年 テーマに基づく情報収集
11	11		7	情報収集	1 年 職業・学部理解のための講演会 2 年 大学訪問
12	12				
13	13				
14	14	7	14	情報収集	1 年 職業インタビュー (地元企業) 2 年 テーマに基づく情報収集
15	15				
16	16		20		1 年 職業インタビュー報告会 2 年 ポスター作成
17	17				
			26	国際交流	姉妹校ハワイ・ルーズベル高校交流会

	8月	情報収集	2年 「情報に関すること」グループ 広島市立大学「高校生による情報科学自由研究」参加
18	17	1	1年 切り抜き新聞の作成 2年 発表会準備
	18	7	2年 発表会準備
19	19	8	1年 切り抜き新聞の作成 2年 発表会準備
	9月	12	国際交流 ハワイ州政府訪問団来校
20	20	15	1年 切り抜き新聞の作成, 全体発表会見学 2年 全体発表会
21	21		
22	22	29	1年 マツダ(株)高原慎二氏による講義 2年 発表会振り返り
23	10月	6	1年 クラス別テーマ設定 1組 消費生活・税に関すること 2組 社会規範に関すること 3組 働くことに関すること 4組 情報に関すること 5組 地域生活や安全に関すること 6組 政治参加に関すること
		10	2年 「情報に関すること」グループ 広島市立大学「高校生による情報科学自由研究」ポスター発表会参加
24	23	20	1年 グループ別課題設定 2年 新たな課題設定
25	24	27	1年 グループ別課題設定 2年 新たな課題設定
26	25	10	1年, 2年 情報収集
27	26	17	1年, 2年 「社会規範に関すること」グループ 広島弁護士会と連携
28	27	24	1年 大分大学今村教授による人間関係構築講座 2年 発表資料の整理・作成
29			
30	28	8	1年 ポスター作成 2年 絵コンテの作成
	12月	21	1年 ポスター作成
31			

32	29	1月	12		1年 ポスター作成, 発表準備 2年 授業「社会と情報」と連携→パワーポイント資料作成
33	30		19		1年 大分大学今村教授による人間関係構築講座 2年 授業「社会と情報」と連携→パワーポイント資料作成
34	31		26	まとめ・表現	1年 全体発表準備 2年 クラス内発表
36	32	2月	2		1年 クラス内発表 2年 資料の再検討
37	33		9		1年 広島弁護士会, 広島東税務署と連携 2年 1学年へのアドバイス
38	34		16	まとめ・表現	1年 全体発表会 2年 グループ内発表準備
39	35		23	まとめ・表現	1年 全体発表振り返り 2年 グループ内発表会, 「情報に関すること」グループ 広島市立大学「情報科学研究科修了生によるパネル討論『研究活動と社会とのつながり』」参加
40	35	3月	23	まとめ・表現	1年 全体発表振り返り 2年 グループ内発表会, 「情報に関すること」グループ 広島市立大学「情報科学研究科修了生によるパネル討論『研究活動と社会とのつながり』」参加
41	36		9	1年間の振り返り	1年, 2年 1年間の振り返り
42	37		17	まとめ・表現	2年 全体発表会 1年 全体発表会見学

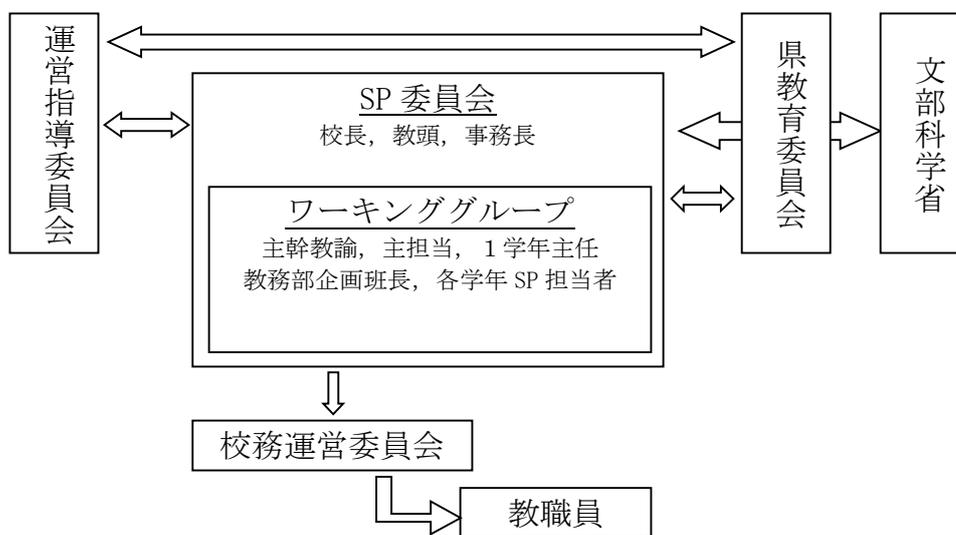
#### 4. 実践研究の実施体制

校長を委員長，教頭，事務長を副委員長とした「SP 実行委員会」を設立し，その中に計画立案・事業運営を行う実務的な「ワーキンググループ」を設ける。ワーキンググループには必要に応じて関係分掌等から関係者の参加を求め，当該事業が効果的にかつ円滑に実施できるよう連絡調整を図ることとする。

また，外部関係者による運営指導委員会を設置して，取組に係る指導・助言等の評価を得る。

\*運営指導委員：広島県中小企業同友会，安佐南警察署，弁護士会，選挙管理委員会，PTA 会長，大学関係者等

##### (1) 研究組織の概要



##### (2) 運営指導委員会の活動状況

回	開催日	出席人数	会場	内容
第1回	平成28年7月19日	10名	広島県立安西高等学校応接室	運営方針
第2回	平成29年2月16日	9名	広島県立安西高等学校応接室	成果報告

##### (3) 運営指導委員会名簿

氏名	所属・役職
川中 英章	広島県中小企業同友会理事・求人社員教育委員長
富田 浩充	広島東税務署税務広報広聴官
松本 清浩	広島東税務署税務広報広聴官
野田 隆史	広島弁護士会消費者問題対策委員会委員長
奥田 穰司	安佐南警察署生活安全課少年第一係係長
山縣 透	広島県選挙管理委員会主幹
三宅 諭	広島県選挙管理委員会主事
井上 智生	広島市立大学大学院情報科学研究科教授
高林 賢治	広島県教育委員会事務局高校教育指導課高校教育指導係指導主事

## 5. 教育委員会等として取り組んだ内容

当教育委員会では、生徒の社会参画の意識を高めるため、広島県明るい選挙推進協議会等外部機関が紹介する素材などについて周知し、必要に応じて学校における教育活動に活用するよう通知した。

また、平成27年度から「広島版『学びの変革』アクション・プラン」に基づき、高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクトが実施され、総合的な学習の時間や教科のカリキュラム開発について研究が行われている。このような状況の中で、実践校は能動的な学びを促進する目的を明確にして本研究を進めてきた。また、総合的な学習の時間や科目「現代社会」，「社会と情報」を中心に、学校全体の教育課程の改善を意識した実践となっており、県全体の取組を牽引する取組となるよう、指導・助言等を行った。

- ・〔指導・助言〕 平成28年7月19日 第1回運営指導委員会
- ・〔講評，指導・助言〕 平成28年2月16日 第2回運営指導委員会
- ・ 電話，電子メール等により，連絡により進捗状況を把握した。

## 6. 実践研究の評価等

平成27年度実践の結果，以下の4つの課題がみられた。

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>① 課題設定における担当教員の指導</li><li>② 異学年の交流による学習意欲の向上</li><li>③ 教科との関連</li><li>④ 校外での活動への参加</li></ol> |
|--|

平成28年度は，この課題解決のために，次の仮説を設定し実践した。

<p>【仮説】 生徒が外部の専任アドバイザーと適切に接触することにより，「社会につながる学び」「社会につながる対話」，「社会につながるマナー」を実感すれば，生徒の主体性や自主性が高まるであろう。</p>
---

評価については，①学ぶ意味の理解，②コミュニケーション，③社会との接点を体感することに観点を置き，定量的及び定性的評価を用いて検証した。特に生徒の行動観察や事後アンケートに基づき評価した。その結果を4つの課題について成果を述べる。

### (1) 成果

- ① 年度当初に専任アドバイザーによる講義を導入し，生徒に実社会との接続・接点を体感させた。その結果，雇用問題や，労働環境といった，社会全体の問題に関する調査がされたように，生徒に実社会を意識させる効果があった。また，このことと同時に，課題を短期間で設定することができた。
- ② 2学年の全体発表会に1学年が参加することで知的刺激を受け，また1学年のクラス発表会へ2学年がアドバイザーとして参加する等の異学年の交流を行うことで相乗効果が生まれた。その結果，2学年のアドバイザーと同席し，1学年の全体発表会にも参加した運営指導委員から，「アドバイスを吸収し，一週間で劇的に改善

されているのに驚いた」という評価の声も聞こえた。意識の変化は、学びに対する意識調査アンケートについての学ぶ意味の理解の項目にも改善がみられた。

- ③ 授業「現代社会」と専任アドバイザーによる講義「租税教室」とをリンクさせ、考えさせる構成にした結果、実施後の感想文では、肯定的な記述が多くみられた。また、授業「現代社会」と探究活動の課題設定とをリンクさせ、さらに授業「社会と情報」と探究活動のまとめ表現とをリンクさせる構成にした結果、パワーポイントの学習等により、表現方法の幅を広げることができた。
- ④ 広島市立大学公開講座「高校生による情報科学自由研究」への参加、「高校生による情報科学自由研究」ポスター発表会におけるグループ発表、さらに「情報科学研究科修了生によるパネル討論『研究活動と社会とのつながり』」への参加など校外での活動に自主的に参加しようとする生徒が増加した。

## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：広島県立安西高等学校

**概要**

実社会での諸課題をテーマとした課題研究及び社会生活について生活者の視点から主体的に考察する学習活動を通じて、実社会や実生活の中で役立つ力を育む学習プログラムを開発する。

**学習プログラムのねらい**

- 実社会や実生活の中で役立つ力を育成する。
- 学ぶ理由を理解して学ぶ意欲を育むことを目標とする。

**学習プログラムの主な内容**

- ① 働くことに関すること<商工会議所， JST と連携>
  - ・職業に係るインタビューをとおして、働くことの意義を考察する。また、求人票の見方や記載内容について考察するなどの活動を行う。
- ② 地域生活や安全に関すること
  - ・地元町内会と連携し、清掃活動や地域の祭りにボランティア活動として参加、地域の保育園・幼稚園・小学校・中学校と書道を通じて交流活動を行うなどの活動をとおして、地域連携や地域の課題について考察する。
- ③ 消費生活・税に関すること<弁護士会，税務署等と連携>
  - ・悪質商法の実態，カードローン被害などについて調査研究することで、防止策や解決方法などを考察する。
  - ・納税の義務や方法，税金の使途など税に係る調査研究をとおして、税について考察する。
- ④ 社会規範に関すること<安佐南警察署，弁護士会等と連携>
  - ・裁判や交通事故，犯罪等の事例をとおして、法的なものの考え方を考察する。
  - ・裁判事例を通じて、論理的な思考や議論の方法を身に付ける。
- ⑤ 政治参加に関すること<選挙管理委員会，地元政治家等と連携>
  - ・政治に係る調査研究，模擬選挙等をとおして、政治への参画について考察する。
- ⑥ 情報に関すること<大学関係者(情報)，新聞社など>

- ・LINE や SNS の活用等についての考察などメディアに係る調査研究等をとおして情報モラルについて考察する。

### **学習プログラムの成果の概要**

- 専任アドバイザーとの連携を深めることにより，生徒に実社会を意識させ，生徒の主体性や自主性が高まった。
- 探究活動の結果，生徒は情報収集，情報処理，発表会における表現力といった，実社会に必要な力を取得した。
- 総合的な学習の時間での取組が，教科指導での場でも生かされ，主体的に学ぶ意欲が高まった。